

KDDI ホスティングサービス（G120, G200）

活用ガイドブック

BASIC 認証ご利用ガイド

（ご参考資料）

rev.1.0

KDDI 株式会社

(目次)

1. Basic認証ご利用ガイド	3
1-1 はじめに	3
1-2 制限事項	3
1-3 サイト初期設定	4
1-4 .htaccessis、.htpasswd ファイルの作成	5
1-5 認証画面について	9
1-6 (参考)リファレンス	10

1. Basic認証ご利用ガイド

1-1 はじめに

KDDI ホスティングサービスの G120, G200 では、Basic 認証(パスワード認証)を利用し、特定のファイルやディレクトリーに対してアクセス制限を行うことができます。Basic 認証利用ガイドでは .htaccessiis ファイルを使用した認証方法についてコントロールパネルの設定方法から認証に必要なファイルの記述方法を説明いたします。

1-2 制限事項

.htaccessiis ファイル、.htpasswd ファイルを使用した認証方法は、次の制限事項があります。

- ・ ユーザーアカウントは1つの「.htpasswd ファイル」に対し、3 ユーザーまで設定することができます。(4 番目以降のユーザーアカウントは無効になります。)
- ・ 認証機能を設定するファイルは、「.htaccessiis」のファイルになります(「.htaccess」ファイルを用いた認証の設定は不可)。
- ・ 大文字・小文字が区別されます(設定を間違えるとエラーコード 500 が表示されます)。
- ・ あらかじめコントロールパネルで設定作業が必要です。設定作業を行っていない場合、正常に Basic 認証を行うことができません。

※ご注意

Apacheの「.htaccess」ファイルで行うBasic認証(パスワード認証)と異なり、「.htaccessiis」のBasic認証(パスワード認証)は、1つの「.htpasswdファイル」に対しユーザーアカウントは**3 ユーザーまでに制限**されております。

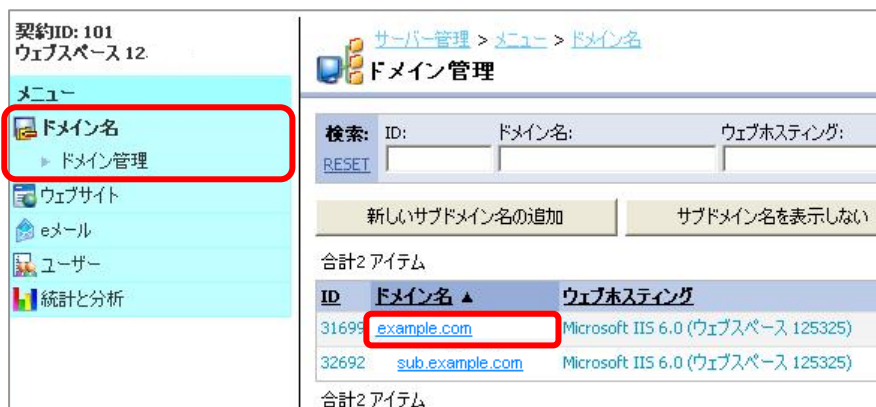
1-3 サイト初期設定

Basic 認証を利用するには CONTROL PANEL のウェブ管理のセキュリティー画面で[匿名アクセス]を許可し、[基本認証]を行わない設定にする必要があります。

※ご注意

コントロールパネルのセキュリティー画面で設定する[基本認証]は、Active Directory を利用した認証機能になります。「.htaccessiis」ファイルで設定する Basic 認証(パスワード認証)を使用するには、Active Directory の認証機能をオフ(無効)に設定する必要がある為、あらかじめコントロールパネルでセキュリティー設定を変更する必要があります。

(1) コントロールパネルにログインし、[ドメイン名] - [ドメイン名の管理] を選択します。表示されているドメインリストの中から、Basic 認証を利用するドメイン名を選択します



(2) [ウェブ管理]タブをクリックし、[セキュリティー]を選択します。画面右下の[編集]ボタンをクリックし、設定画面を開きます。



(3) [匿名アクセス]にチェックを入れ [基本認証]のチェックを外し、[送信]ボタンをクリックします。

(4) 変更が完了すると、以下のように表示されます。

1-4 .htaccessiis、.htpasswd ファイルの作成

Basic 認証を利用するためには、.htaccessiis と .htpasswd の 2 つのファイルを作成する必要があります。各ファイルの役割は以下のとおりです。

- ・ .htaccessiis … Basic 認証の基本となる設定ファイル。
- ・ .htpasswd … Basic 認証に利用するユーザー名と暗号化されたパスワードのリスト。

※ご注意

KDDI ホスティングサービス G120、G200 の Basic 認証(パスワード認証)で用いる設定ファイルは、『.htaccessiis』となります。Apache で使用される、『.htaccess ファイル』とは異なりますのでご注意ください。

.htaccessiis ファイルや .htpasswd ファイルはテキストエディタなどで作成可能です。Windows マシンなどの場合、『.(ドット)』から始まるファイル名は作成することができませんので、『htaccessiis.txt』といった別名でファイルを作成し、ファイルマネージャーや FTP でファイルをアップロード後に名前を、『.htaccessiis』に変更してください。

1-4.1 .htaccessiis の記述方法

ディレクトリーに対して Basic 認証をかける場合、Basic 認証をかけたいディレクトリーに次の内容の .htaccessiis ファイルを設置します。

ファイル名	.htaccessiis
内容	AuthName "Please enter username and password" AuthUserFile D:¥CustomerData¥webspaces¥webpace_xxxxxxx¥ …¥.htpasswd AuthType Basic Require valid-user

AuthName	認証の際、表示するメッセージを指定します。半角の英数字が利用可能です。 メッセージの中に、スペースを含む場合は『』（ダブルクォーテーション）で囲む必要があります。
AuthUserFile	認証に利用するパスワードファイル(.htpasswd)を絶対パスで指定します(絶対パスの調べ方は後述)。
AuthType	認証のタイプを指定します。Basic は .htaccessiis ファイルが設置されているディレクトリー以下すべてのディレクトリーに対して認証を行います。None は 上位ディレクトリーで設定された認証を無効にし、設置したディレクトリー以下のアクセス制限を解除します。
Require	認証の対象となるユーザーを指定します。valid-user は全てのユーザーに認証の機会を与えます。通常これを選択します。

※ご注意

.htaccessiis の記述で大文字と小文字を間違えるとエラーとなりますのでご注意ください。

[絶対パスの調べ方]

絶対パスはお客さまごとに異なりますので、下記の手順にてご確認ください。

- 1) コントロールパネルへログインし、[ウェブサイト] -[ウェブサイトの設定]を選択します。[PHP のサポート]の項目右側のテストをクリックします。

The screenshot shows the 'ウェブサイトの設定' (Website Settings) page in the control panel. On the left sidebar, 'ウェブサイト' (Website) is selected, and 'ウェブサイトの設定' (Website Settings) is highlighted with a red box. The main content area shows the '基本設定' (Basic Settings) section. Under 'PHPのサポート' (PHP Support), the status is 'オン' (On) and the 'テスト' (Test) link is highlighted with a red box. Below this, there are sections for 'FTPの設定' (FTP Settings) and 'Active Perlサポート' (Active Perl Support).

(2) 表示された画面の「APPL_PHYSICAL_PATH」の項目を参照します。

APPL_MD_PATH	/LM/W3SVC/ /
APPL_PHYSICAL_PATH	D:\CustomerData\webspaces\ \ \
INSTANCE_ID	

1-4.2 .htpasswd の記述方法

.htpasswd のファイルには『ユーザー名:暗号化されたパスワード』の形式で 1 行に 1 ユーザーずつ記入します。

ファイル名	.htpasswd
内容(例)	taro:F82fiVO3OjKYg jjiro:bp7FQSVrIbIfM hanako:IHU.d6MpM7tRU

※ご注意

Apacheの「.htaccess」ファイルで行うBasic認証(パスワード認証)と異なり、「.htaccessiis」のBasic認証(パスワード認証)は、1つの「.htpasswdファイル」に対しユーザーアカウントは3 ユーザーまでに制限されており、4 ユーザー目以降は無効になります。

ご参考

パスワードを暗号化するには Htpasser 等のツールを使用するか、ウェブ上で簡単に.htpasswd を作成できるサービスがありますので、そちらを活用してください。

作成した .htpasswd ファイルを任意のディレクトリーに設置します。

※ご注意

セキュリティ上、.htpasswd ファイルはウェブからアクセスされないディレクトリー(/private 等)に設置することを推奨いたします。その際、.htpasswd ファイルに Anonymous Web ユーザーの読み取りを許可してください。

[.htpasswd ファイルに Anonymous Web ユーザーの読み取りを許可する方法]

(1) ファイルマネージャーで .htpasswd ファイルを設置したディレクトリーを開きます。

.htpasswd ファイルの右端にある [鍵のアイコン] をクリックします。

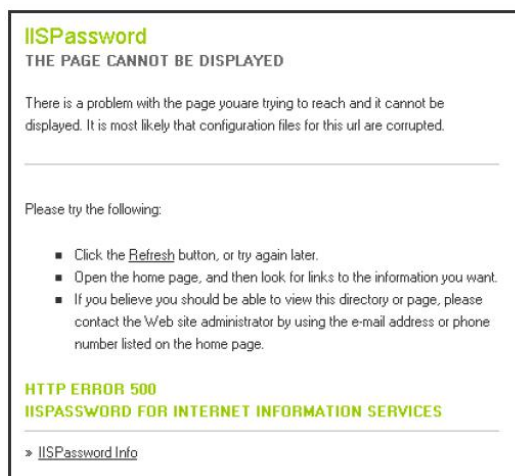


(2) アクセス権の設定画面で、Anonymous Web ユーザーの読み取りの [許可] にチェックし、[OK] をクリックします。



1-5 認証画面について

.htaccessiis と .htpasswd のファイルを設置し、ウェブサイトアクセスすると、以下(左)の認証画面が表示されます。認証後、以下(右)のエラー画面が表示される場合は、.htaccessiis と .htpasswd のファイルの記述が誤っている可能性があります。絶対パスの指定や、記述ミスが無い確認をお願いします。



※ご注意

.htaccessiis と .htpasswd のファイルを変更後、再度認証画面を表示するにはブラウザを一旦閉じて、再度ブラウザを開く必要があります。

1-6 (参考) リファレンス

.htaccessiis で使用できるディレクティブ一覧です。

※ご注意

ディレクティブの記述で大文字と小文字を間違えるとエラーとなりますのでご注意ください。

○ AuthGroupFile

構文 AuthGroupFile *filename*

ユーザー認証のための、グループファイルを設定します。Require group を宣言したときのみ必要です。

filename は絶対パスです。

```
AuthGroupFile D:¥CustomerData¥webspaces¥webxxxxx_xxxxxxx¥・・・¥.grouplist
```

グループファイルの各行は、グループ名: ユーザー ユーザー・・・ と指定します。

```
group1: taro jiro  
group2: hanako taro
```

○ AuthName

構文 AuthName *realm*

認証の際、表示するメッセージを指定します。半角の英数文字が利用可能です。スペースを含む場合は『”(ダブルクォーテーション)』で囲みます。

```
AuthName "Please enter username and password"
```

○ AuthType

構文 AuthType *type*

認証のタイプを指定します。Basic は .htaccessiis ファイルが設置されているディレクトリー以下すべてのディレクトリーに対して認証を行います。None は 上位ディレクトリーで設定された認証を無効にし、設置したディレクトリー以下のアクセス制限を解除します。

```
AuthType Basic
```

○ AuthUserFile

構文 AuthUserFile *filename*

ユーザー認証のための、ユーザー一覧ファイルを設定します。*filename* は絶対パスです。

```
AuthUserFile D:¥CustomerData¥webspaces¥webxxxxx_xxxxxxx¥・・・¥.htpasswd
```

○ **Require**

構文 `Require user user-id user-id...`

`Require group group-name group-name...`

`Require valid-user`

ユーザー認証の際に、認証させるユーザーを指定します。第一引数により、パスワード認証の機会を与えるメンバーを指定します。

`Require user`

ユーザー単位で、認証の機会を与えます。パスワードファイルに登録されているユーザーのうち、`user-id` だけに認証の機会を与え、ほかは拒否します。

```
Require user taro jiro
```

`Require group`

グループ単位で、認証の機会を与えます。パスワードファイルに登録されているユーザーのうち、`group-name` グループに属している場合だけに認証の機会を与え、ほかは拒否します。AuthGroupFile であらかじめグループ定義を行う必要があります。

```
Require group eigyo soumu
```

`Require valid-user`

全てのユーザーに、認証の機会を与えます。通常、これを選択します。

```
Require valid-user
```

○ **Files**

構文 `<Files filename>...</Files>`

`<Files>` ~ `</Files>` で囲まれたブロック内で指定される制限を、ファイル `filename` だけに適用します。

```
<Files "admin.asp">  
    Require group Admins  
</Files>
```

○ **FilesMatch**

構文 <FilesMatch *regex*>...</FilesMatch>

<FilesMatch> ~ </FilesMatch> で囲まれたブロック内で指定される制限を、正規表現 *regex* にマッチするファイルだけに適用します。

```
<FilesMatch "¥.(aspx?!php!cfm!cgi)$">  
    Require group Admins  
</FileMatch>
```

※ご注意

リファレンスに関するご案内は行っておりません。関連書籍・関連ウェブサイトをご参照いただきますよう、お願いいたします。